

# 特集 もっと知ろう！留学生！！

## 留学生座談会

2007年7月30日（月）に川崎市国際交流センターにて3名の女性留学生の皆さんにお話を伺いました。しっかりとした目的を持って日本にいらしていることに感心させられました。とはいえ、外国で生活する以上、異質な体験にも事欠かない様です。楽しくも貴重なお話をご紹介したいと思えます。

司会：まず、自己紹介をお願いします。

私は尹常和(ユン サンワ)と申します。韓国ソウル(京畿道)出身で2004年9月に来日しました。



易会社で通訳や翻訳の仕事をしていました。以前、ワーキングホリデーで来日した時にはハングル講師をしました。その経験を通して、もともと好きだった“教える仕事”にも興味をもち、日本語教師養成コースに通っています。

私は謝佳紋(シャ カブン)と申します。台湾の台北から2007年の4月に来日しました。



司会：日本語または留学経験をどのように活かしたいと思っていますか？

尹：私は映画監督というよりも、製作やもしくはフィルムフェスティバルにたずさわのような仕事をしたいと思っています。日本と韓国の合作にかかわれるようになりたいと思います。

謝：台湾にもどったら、貿易関係の仕事で日本語を活かしたいです。

李：通訳や翻訳の仕事でキャリアを積み、日本語教師もやっていきたいと思っています。

司会：留学の動機は何ですか？

尹：大学生になってから映画に興味をもち、見るようになり映画のサークルに参加しました。サークルの合宿でプサン映画祭へ行った時、日本映画を初めて5本位見ました。それまで日本についてほとんど知らなかったの、とても新鮮に感じました。日本や日本文化にも興味をもちました。大学卒業後、図書館司書として一年程働きました。大学院への進学を考えたりもしましたが、どうしても映画を勉強したくなりだったので、来日し、現在は映画の専門学校へ通っています。3年間の課程で今、2年生です。

謝：大学でも日本語を専攻していました。卒業後、貿易会社に就職しましたが、もっと日本語が上手になりたいと思い留学をしました。日本語の専門学校に通っています。

李：私も大学で日本語を専攻しました。韓国の貿

司会：日本に来て、驚いたことってありますか？

尹：渋谷へ行った時、ギャルといわれている女の子が目前にいたのでびっくりしました。その人たちが、あまり人の目を気にしないで、独特な姿をしていたり、行動をとっているのが驚きました。韓国でも、そういう姿をしている人もいますが、かなり周りを気にしています。それに見ている人もかなり気にしています。

また、ラッシュの地下鉄に乗った時のことですが、急ブレーキがかかって電車が止まったんです。足を踏まれた人や、寄り掛かれた人などがいたのですが、日本人は何も言わないで、すましているのです。たいへんびっくりしました。韓国では抗議の気持ちを表現するのが当たり前なので、そういう時、韓国人たちは感情を出して怒ることが多いなと思いました。

李：今から3年前に1年間日本に滞在したことが

あります。1年間の留学を終えて韓国に戻った時のことなのですが、電車の中で友だちから電話がかかってきた時に「今、電車の中だから後で電話するね!」と言ったら「なんで電車の中だから話せないの?」と言われたことがあります。その時に初めて日本と韓国の文化の違いというのを実感しました。自分も韓国人ですが、電車の中では周りの方に迷惑になる行動はなるべく避けた方が良くと思っています。そのように思うきっかけとなったのがやはり日本での留学経験があったからだと思います。

また、日本で食事に行った時、お箸がみつからないので「すみません、お箸がないのですが」と言ったら「ここにあります。」と言われ、見たら横にして置かれていました。韓国では縦にして置くので文化の違いを感じました。

謝：日本の電車はとても混んでいるのでびっくりしました。台湾では人と触れるほど混んでいることはありません。だから、男性が隣にいたりすると、特に気持ち悪く感じます。

夜、帰る時見かけたのですが、お酒を飲んで酔っぱらいらしい人が駅の階段などに、座り込んでいたり、ホームのベンチで寝込んでいる人もいたり、そういう姿を見てびっくりしました。台湾ではこういう姿は見かけません。ホームレスも日本の方が多いです。ダンボールで家を作っているのにはびっくりしました。

日本で驚いたこととして、もう一つは自転車がすごく多いことです。台湾では自転車は中学生ぐらいまでで、大人はバイクです。

李：自転車といえば、子供を前と後ろに乗せて、お母さんが走って行く。その姿にはびっくりしました。

尹：私は日本へ来た時、スーツケースが2個で120キロあったのです。成田に着いた時、何もわからないまま、なんとか手続きをして通過してしまいました。いろいろなことを知ってしまった今では、とてもできないことだと驚いています。

司会：日本で体験したり、経験をしたりして、楽しかったこと、うれしかったことなどはありますか？

謝：川崎大師の風鈴祭りに行った時、とても楽しかったです。風鈴の種類が多く、台湾では見られないような形のものがあつたり、描かれている絵もさまざま、目をみはってしまいました。風鈴の音の中をあちこち見ながら、歩いて行くのは気持ちよく楽しかったです。

尹：友達の紹介でレストランの調理場で働くアルバイトをしました。そこでは洗いがほとんどです。皮膚が弱いので洗剤にかぶれてしまい、とてもつらい思いをしました。でも、仲間の人たちがとても親切で、よい見ばかりだったので、よく面倒をみてくれ、とてもうれしかったです。仕事が終わってから、お祭りや、ボーリングに行ったりしたのも楽しかったです。

今はフロアで仕事をしています。朝早いのが大変です。最初は慣れなくて、表情も固かったのですが、今は慣れ、常連のお客さんも声を掛けてくださるようになりました。時にはプレゼントをくださるお客さんもいて、仕事にも余裕をもって当たることができるようになりました。日本の生活に入れたうれしさを味わっています。

李：結構大きい韓国語教室の教師になれたことがとてもうれしいです。競争率の高い中で合格したことが評価されたのが嬉しいです。日本人の女性8人の人たちに韓国語を教えながら、意見交換するのも楽しいです。

司会：ホームシックにかかったり、ご両親が結婚や一人暮らしについて心配していませんか？

尹：私は2年間は帰りませんでした。それは、「大学院へ入るという目標を達成するまでは…」との気持ちをもって生活をしていましたから。最近韓国でも、結婚は30歳過ぎても構わないという傾向があるようですが自分としては、親の健康を考えると早く結婚したいです。

謝：台湾でも、30歳過ぎが普通になってきています。私はまだ22歳ということもあり、親はあまりうるさくは言いません。

司会：これから日本に来たいという留学生にアドバイスがありましたらお聞かせください。

尹：自分で持ってくる荷物等整理し、考えて持ってきた方が良くと思います。日本の言葉や日本の文化など、本を読んで勉強してから来た方が良かったと思っています。また、「日本のことをもっと勉強しよう」という目的意識をもって来たほうが自分の生活にとってプラスになるかと思っています。

謝：日本は物価が高いです。最初はアルバイトを探すのが大変。断られたこともあります。経済的にも、余裕が持てないので、ある程度、資金を貯めてからのほうが良いでしょう。使い方等も考えてしまうこともあります。

尹：日本に来てからの買い物などは、長く使うものを使い捨てるものなどに分けて、また値段を考えてから、買うようにしています。

李：きちんとした目標をもって来た方が良いと思います。日本に来ている意味が分からなくて帰ってしまう人もいます。また、生活用品などファッションは東京にいるのだから、東京に馴染みたいですね。

司会：皆さんの日本語があまりにもお上手だったのには驚きました。おかげでお話はとても良く分かりました。興味深いお話、どうも有難うございました。

## 世界の食卓から

### スペイン料理 — Olla gitana(豆と野菜の煮込み料理) —



#### 材料(4人分)

さやいんげん	1袋(150g)
ヒヨコ豆	缶詰1缶
かぼちゃ	1/4個
じゃがいも(大)	1個
にんじん(小)	1本
玉ねぎ	1/2個
トマトピューレ(カゴメ)	250g
固形コンソメ	1個
塩	少々
オリーブ油	少々
ミント(乾燥葉)	少々
ニンニク	1かけ

#### 作り方

にんじんは皮をむき、縦半分にして5~6ミリに切る。さやいんげんはすじを取り、2~3センチに切る。かぼちゃは皮をむき、4センチ大の乱切りにする。じゃがいもは皮をむき、3センチ大の乱切りにする。ヒヨコ豆は缶詰の場合、ザルにあげて水気を切る。乾燥豆の場合、1晩水につけておく。ニンニクと玉ねぎはみじん切りにする。

フライパンに油を入れ熱した後、のみじん切りのニンニクと玉ねぎを入れる。を少し炒め、塩で味付けをする。トマトピューレを加え強火でよく炒めた後、オリーブ油を入れて火からおろす。準備したの豆と野菜を違う鍋に入れる。の鍋にの下ごしらえをした玉ねぎとピューレを加える。材料がつかくらの水を入れ、塩、ミントを加え、よく混ぜてから火にかける。煮る時間は様子を見ながら調整する。